

第2回六郷小学校区地元代表者協議会 会議録

1 日 時 令和5年4月18日（火）18時30分～19時50分

2 場 所 六郷コミュニティセンター ホール

3 出席者 (1) 委員 10名

(2) 事務局 教育指導部長 山口 玲子

学校教育課長 植木 修

学校教育課適正規模適正配置推進主幹 森谷 純

学校教育課適正規模適正配置推進室長 柴倉 和典

学校教育課 主事 田村 美佐保

学校教育課 主事 渡邊 亮

学校教育課 学校教育専門員 岩倉 由美

4 内 容

(1) 開会

(2) あいさつ (会長)

(3) 自己紹介 (事務局)

(4) 協議

①会議録の承認について

②統合のあり方に関する意見について

③その他

(5) 第3回協議会の開催日程について

(6) 閉会

(4) 協議について

(会 長) 初めに「会議録の承認について」説明をお願いします。

《 事務局から説明 》

(会 長) 以上の説明について、質問はいかがか。

《 質問なし 》

(会 長) 次に、「統合のあり方に関する意見について」説明をお願いします。

《 事務局から説明 》

(会 長) 以上の説明について、質問はいかがか。

(委 員) 前回の会議を受けて、あらためて保護者の皆さんに要望等確認してそれをまた会議で報告できればと思っています。小学校と連携してアンケート用紙などを作って回収することをやりたいと思います。ちょうど22日に懇談会と総会があるので、その時にアナウンスしたいと考えており、そういう形で今検討しています。

(会 長) 他にありませんか。

(委 員) 小学校が六中の方になるということで、給食室も新しく建てるということでしょうか。

(事務局) 今日教育総務課長は来ていないのですが、第六中学校の敷地と校舎を統合小学校として使用します。そして第六中学校のグラウンドの一角に、共同調理場を整備するということで、そこから統合小学校の給食を提供するということになりました。校舎に接続する形で給食室を整備するということはないということになります。

(委員) スクールバスの件ですが、この辺は、冬とか吹雪がすごくて辛いですが、どのように考えているのかなあと思う。歩きだったら、歩道をつくるとか、六中って裏からも行けますけど、そこの電灯を設置するとか、その辺まではまだわからないかもしれませんが。それとスクールバスもこの吹雪の中をずっと通って、まだ六郷はいいけれど、そこに行くだけなので。例えば、塩井、広幡とかなかなか厳しいと思います。あとバスを待っていても時間にこない。その合間はどうした方がいいのか、ゆくゆくなんでしょうけど。結構幼稚園バスとかも、30分とか40分とか遅れることはあります。でも学校はそうはいかない。1限目出席できませんでしたとはいかない。そのあたりも踏まえていろいろ検討して欲しいなと思います。

(事務局) 通学に関してはご心配だと思います。統合するにあたり考えているのは、学校が統合することにより学区が広がるということは間違いのないことなので、子どもたちが安全に毎日通えるということで、基本的に、スクールバスの運行を想定しています。実際、スクールバスをどのエリアでどのように運行するのがいいのか、経路の問題があります。特に、冬場に時間がかかりすぎて、学校の始まる時間に間に合わないということがないように、経路をあまり長くならない程度で運行する。三沢東部小、三沢西部小、西部小がこの度統合いたしました。三沢地区では、マイクロバス1台とジャンボタクシー車両1台、田沢地区では、ジャンボタクシー車両2台を使ってスクールバスを運行しています。そのような形で運行した場合に、遅れが出ないだろうかということについて、今年が統合初年度なので、この冬、どのようになるかをみながら、必要であればスクールバスの運行方法の修正も想定しています。1台の車両の運行距離が長くなってしまうと、乗っている時間が長くなり、遅れる可能性も出てくるので、適切な距離で運行するような形で学区全体を見ながら検討していく予定です。通学については、統合準備委員会で検討させていただく予定です。

(委員) コミセンに中継を結ぶみたいな形もあり得るということですか。例えば、コミュニティセンター前に、何時集合といったことにするとか。

(事務局) どこを乗降場所にするのかは当然出てきます。安全に待っていられる場所が必要になるので、コミュニティセンターは重要な乗降場所になると考えています。

(委員) 第1回の地元代表者協議会の後で、民生委員・児童委員の定例会とか婦人会とか、その他にも近所の小学生を持つお父さんお母さんにお話を聞いてみましたけ

ど、やっぱり身近なことが心配で、例えば、今まで1つの地区でやっていた伝承行事などはどうなるのかとか、通学的手段はどうなるのか、子ども達が歩いては行けないよねとか、バスになるのかといった心配があった。また、学童保育については、市へ要望書を出しているとのことですが、学童はどうなるのかみたいに細々とした心配がありました。けれども私もなかなか答えられなくて、地元代表者協議会の後の準備委員会で決まるはずなので、そのためにいろんな意見を出してくださいってお話しておりました。以上が私のまわりの状況です。

(事務局) 地区の行事などは、今までは学校と密接に関わって実施されていたと思いますが、統合後にそれらがどうなるのだろうかといったご心配は、当然あると思います。また、通学では、先ほども出ましたが長い距離を歩くのは、そもそも小学1年生には大変だったり、吹雪の中では6年生でも大変だということはお心配だと思います。そういったところがご心配だということを出していただいたので、そういうご意見を意見書の中に盛り込んでいただければと思います。

また、学童保育に関しては、統合とは、必ずしも直接的に関わらないことになっていきますが、要望書を頂戴しておりますので、間違いなく福祉部門の方と協議をしながら検討していくことになると思います。

(委員) 例えば、通学路に関する事、給食に関する事、学童についても今話されたことですが、学童については、1月に要望書を市長、教育長宛に出させていただいておりますので、この件に関しては、行政の方でもいろいろ考えていい方向に進めていただけるものだと思っている。

ただ、今の六中の敷地として、学童保育についてその一角を使って学童保育をするのは、できるのではないかという気がします。これからの学童の利用についてというに関しては保護者の方からの要望もあり避けて通れないところだと思っております。粛々と進めていただけると思っております。

通学に関しては保護者の方、地域の方もですが、先ほど広範囲になるっていうようなこともありますし、長橋などからの通学となると、中学生だとそんなでもないかもしれませんが。小学生に関しては、きめ細かな対応をしていただけると思っております。なお、通学の際、自宅から学校までバスで行くとなると、体力的にどうなのか心配だというご意見もあるので、通学については、大きな心配の1つだと思っています。

また、給食に関しては、ほぼ、本決まりで進めている状況だと思いますが、市内の色々批判をされる方にとっては給食共同調理場の設立に関してもどうなのかというご意見もでています。それから、共同調理に関するコストについては、自校炊飯に対して、コストが安くなるというのは、違うのではないかっていうような意見もあり、これからの給食のあり方に関しては、共同調理よりも自校炊飯を進めていくという流れがだんだん強まっているのではないかと思う。もう進めてしまっている状

況であるのならば、3年、5年と進めた中で、検証することを絶対していただきたいと思います。

(事務局) 通学の件に関しては、保護者の方をはじめ、地域の方々も毎日見守っていただいている中で、子どもたちがニコニコ楽しそうに通学する姿が当然あって、クタクタになって通学するっていう姿は決して見たくないことは、十分にわかります。ですので、安全に通学できるような、方法を作っていくというのは間違いない。そこはしっかりさせていただきたい。スクールバスを運行する場合、子ども達が歩かなくなってしまう、成長期の子ども達にとって心配であるという考え方もあります。そのバランスは結構重要だと思っております。自宅から学校までスクールバスでということではなく、ある地点に登校班で集まり、そこからスクールバスへの乗り降りをするといったことも考えることは可能かと思われれます。成長期の子ども達なので、一定程度、徒歩による登下校も必要ではという考えもわかりますので、準備委員会の協議の中で決めていければと考えております。

また、共同調理場の件ですが、本日は教育総務課長がおきませんので、あまり詳しいことは申し上げることができないのですが、学校運営の面から申し上げますと、統合に伴いまして、市内の中学校を統合して3つに統合しますが、現第四中学校校舎を使用して、四中と六中の統合中学校である（仮称）北中、校舎を新設する二中与三中の統合中学校である（仮称）南西中、はじめに五中と一中、次に一中と七中が統合する（仮称）東中が、それぞれ開校する予定です。この統合によって各中学校の生徒数がかかなり増加します。そのような状況の中で、まずは、統合中学校として学校施設を使用することになる一中や四中に給食調理室を建てることのできるかについて検討しました。子どもたちが増えるということは、部活動、体育、その他の行事でグラウンドを使う機会もかなり増えます。例えば、吹奏楽の部活でも天気の良い日は外で練習することが頻繁にありますので、学校施設の敷地のいろいろな場所を目いっぱい使うことにもなり、そのような中で、給食調理室を建てるという余裕はないという検証の結果であったようです。

学校敷地内に建てられないということになれば、どこか他の場所に給食を提供できるところを探す必要があります、共同調理場という形で中学校給食の提供を行う方法を採用したものです。また、現在、7つの中学校がありますが、すべての中学校のPTA会長連名で、統合中学校に給食調理室を建てることと狭くなってしまい活動ができなくなることから、中学校には建てないでほしい旨の要望書をいただきました。そのような要望もふまえた上での選択であったと承知しております。直接の担当ではないので、そういった流れだということは承知しておりましたので、情報提供させていただきました。

(会長) ありがとうございます。

(委員) この統合が初めての統合ではないので、前例を踏襲しながら子どもたちがスムーズに、新しい環境に慣れればよいと思います。私は、すぐに仲良くなったりして楽しい学校生活を送れるのではないかと考えていますけれども、西部小学校に統合した三沢東部三沢西部などの状況も提供していただきながら、子どもたちがスムーズに学校生活を送れるようにしていければと思いますのでよろしくお願いします。

(事務局) 子どもたちは統合の前に、事前に交流事業をしますし、統合してから仲良くなるよりも、事前に交流をしながら、仲良くなって、会うのが楽しみだ、一緒に学校生活を送るのが楽しみだというような状況を準備して、統合が楽しみになれるような進め方をしていきたいと考えています。今年度、三沢東部小、三沢西部小が西部小の校舎の方を使って3校統合ということになりましたが、バスで通ったり、ジャンボタクシーで通ったりということをしておりますけれども、教室でもすごく仲良く過ごしておりますし、三沢東部、三沢西部の子ども達が、例えば、学級委員に立候補するといった場面もあるようです。新年度になって、三沢、田沢の子ども達が新しい校舎という環境が変わって心配していたのですが、私たちが心配する以上に、すごく馴染んでいて、すごくよかったと思います。統合に関しては、同様に事前の交流を進めていきたいと考えています。

(委員) 統合して中学校が3つになるということで、五中と一中が統合して、一中と七中が統合になっていくと言われた時に、えっと思ったのは、地域の特色というか、小学校は六郷の特長があるし、広幡の特長もあるし、塩井の特長がある。それは各地域の特長を教えていく、地域の良さ、地域の文化を子どものときから、自然の中に触れるとか、食の大切さとか、そういうことは田植えや稲刈りをしたりとか、そういう中で子どもは自然に、1年生から6年生までの間に餅を食べたりしている間に、俺も父ちゃんと一緒にうちで米作りするかなって思わせる。それは学校教育の中で学ぶもの、地域教育の中で学ぶことではないかと思う。経済的に回らなくなったから仕方ないから統合でしょう、という基本的な姿勢が間違っているのではないかと考えている。みんな統合は仕方ない、何とかしなければとは言いうけれども、地域の特長を子どもたちに教えて地域の良さを育てていかなかったら、地域が全部滅びます。東京一極集中で山形はいらない、東北はいらない、そこまで極端に言えばそういうふうなことを今我々人間がやろうとしているのではないかと思う。財政とかそういうふうなためにでなくて、次の時代を担う日本の子どもたちをどのように教育していくのかというところが基本だと思う。その基本が単なる行政の経済的な手段に特化して、担当である教育委員会のやむなしの判断だと思うのだけれども、本当にこれでいいのか。その次の世代の人たちは農村社会では米をつくる楽しさとか、労働して汗をかいて自然の中で体力を作るとか、そういう基本的なことが全部抜けてしまうのではないかと思う。国の教育の

基本方針が、文部科学省に言っても届かないと思うのだけでも、間違っているんじゃないかなと思っている。それをみんなで確認しながら方向を変えていかないと日本は沈没してしまうのでないかと思う。それは何かというと、教育委員会も文科省も担当者がある。国の担当者、担当している部署があるわけだが、その人たちは自分たちの立場だからしょうがないですよという言葉だ。本音で1人の人間として生きていくときに、どういうふうに次の世代の子ども達を導いていったらいいだろうなという基本的な考え方が全部抜けている。それを言ってしまったら何もできないと言われてしまったらそれまでなのだが、それをもう1回みんな人間一人一人が確認して教えていかないと今の社会ができたと思う。結果として爆弾もっていついていらずらでもしてみるかとなってしまう。その思いってどういうことなのかというと、子どもの時の思いとか、小学校、中学校の教育課程の中や家庭的な問題があったのかもしれない。あとは自分の自由だと言ったり、親を殺めたり、そういうことする人もいっぱいいる。これは何なのか。それをやっぱり成長している過程の小学生や中学生の人たちが、その時代にきちんとした道徳とか、マナーとか人間として生きる価値とか、この間も朝のテレビでやっていたが生きてきた人はそれなりの理由があって生きてきたのだということを言っていた。テレビがああいうこと教えるようになったなと感じたが、文科省の担当者はそういうことを教えない。

単に、英語力を高めましょう、計算力を高めましょうということも確かにあるけれども、人間としての心を育てましょうという教育はほとんどなくなったのではないか。そこに一回戻らないと、日本は沈没してしまうと感じる。今、みんな統合はやむなしはわかるし、俺もやむなしだと思う。経済的にもしょうがない。しかし、今、統合進めようとしている我々がそれをしょうがないっていう言葉にしているのだろうか。ここでワンクッションおいて、人間として本当にこれでいいのかなということをみんなで考えてみたい。担当者、地域の代表と色々あるけども、せめて米沢全体でそれぐらいは考えられるのではないか。みんなで、そういうことを頭の中にもう一度入れ直しして心を育てる教育をしましょうという考えにならないといけないと思う。先行き不安なので、その辺のところ、ちょっと考えながら、統合の話を進めていただきたいなということを切に思いました。

(会 長) ありがとうございます。事務局、お願いします。

(事務局) 今おっしゃっていただいたことはどれももったもな事だと思います。前回もお話した中で、六郷小、広幡小、塩井小の3つの学校が統合する「(仮称)総合小学校」をどんな学校にしていくかと言ったときに、3つの小学校ともに各地域と深く関わって学校運営させていただいているというところですので、それぞれの地域の特長をどのように学校づくりに活かしていくのかといったところは、これから4年後の開校を目指して時間をかけて話をしていかなければいけないところ

であり、そこは学校関係者だけではなく、地域の方とも一緒にお話をしていかなければならないと思っております。

先ほど、伝統行事はどうなるのかということもありましたが、三沢東部小、三沢西部小の統合についても、それぞれの地域で学校と深く関わって、子どもたちがたくさん地域の方と活動させていただいていました。西部小にすべてを持っていくことは難しいので、どれをどんな形で取り入れるか、そして取り入れにくい部分は、地域とどのように残していくのかということを考えてきたのですが、正直なところ、この春までにすべての結論が出たというところまではいっていないところです。まずは、子どもたちが新しい環境に慣れるということを最優先にしながら、その中で地域とどう関わっていくのか考えながら進めていきたいということで今年度をスタートしたところです。まだ、4年間の時間はありますが、その中で、それぞれの地域とどんなことを大事に残していくか、統合小学校になったときには、その3地区の地域のよさをいかしてどんな教育活動ができるのかというところはしっかりと考えていきたいと思っています。米沢が大好き、自分の生まれ育った地域が大好き、そんな子どもを私たちは育てたいという思いは皆様と同じです。少子化の傾向もありますが、教育委員会としては、子どもたちがある時期、様々な人と関わりながら育っていくことの大切さも考えながら、統合の話を進めさせていただいています。これからの世の中を生き抜く力として何が必要かということを考えながら、一緒に学校づくりをしていきたいなと思っておりますので、現在の六郷小学校の教育活動も大事にしながら、そして統合小学校でどんな学校をつくっていけるのかといった両面を大事に考えていきたいと思っています。今のような皆さんの思いを聞かせていただくのが、この地元代表者協議会だと思っておりますので、様々な思いをぜひ聞かせていただきたいなと思います。具体的なところは準備委員会の方で様々な手だてをとっていききたいと思います。

(会 長) ありがとうございます。皆さんの方からありませんか。

(委 員) フリースクールなどの教育も広がっているところがあったり、特殊な能力を伸ばすような学校もあったりとか、この地域の方はなかなか出てきてないと思うが、どんどん学校を選べるような環境が整ってくるのかなと考えている。いろんな話を聞くと、もっと選択の幅も広がってくるのかなというの也有ります。統合が嫌だっという人はいないとは思いますが、最近のいろいろな話題を聞いていて教育がどのような方向に進んでいくのかということをお親としては考えています。

(事務局) 時代の流れといいますか、フリースクールという話もありましたが、コロナが加速させたようなところもありますが、例えば、学校に通えずに、オンラインで授業を受けるというようなことについても、できるだけ出席というような形にしていましようというような国の方針も出されました。学校に来なくても出席扱いになるととらえてしまいますけども、そのようになかなか学校には来られない

子ども達に何とかして学習を身に付けてもらったり、学校と繋がるようなところを大事にしていきたいと思います。というのはその通りだと思っています。では、なぜ学校があるのかというところになると、そこで色々な人と関わって、大人の社会ではないけれども社会の縮図というような形で色々な人が関わることで人は成長していくものと思っています。

統合していくと学校の数は減っていくわけですが、1校1校を魅力ある学校にしていきたいなと思っています。いろんな事情があって、学校になかなか通えない子ども達がいるわけですが、その子たちも学校に来ないからオンラインで良いということではなくて、オンラインを通して出席扱いにしながらも、できるだけ学校に気持ちを向かせて、同じ年頃の友達と一緒に過ごし、一緒に勉強して育っていく、自分が成長していくということを感じてもらいたいなと思っています。

(会 長) 他にありませんか。

(委 員) 卒業生として、今は親として振り返ってみると、副会長が言ったように、地域に密着した授業ってやっていたなあと思いました。塩井小や広幡小でも一緒にやっているのでしょうかけれども、勉強だけがすべてじゃなくて、そういう地域のことを知ること、もしかしたら六郷の子が広幡とか塩井のことを知ると、もう少しいろいろ豊かになるのかな、心を育てるっていうのがとても大切だと思います。

また、子どもたちだけでなく、爺ちゃん婆ちゃん兄ちゃんなどが、そういう時にいっぱい集まってわいわいしながら、そういう場を学校も一緒につくって行って欲しいなと思います。自分の子どもの頃には、確かに面倒くさいかなと思っていたかもしれないですけども、親になってみると、やってもらって良かったと思う。田植えなど自分は農家だからどういうふうで育って、どういうふうになっているか知っているわけですけども、当然知らない人たちもいるしそういう特色を見ながら、地域と密着して子どもたちの成長、心を育てる教育というのが、先生たち、教育委員会とかも考えて欲しいなと思います。

あと全然違いますが、統合したら六郷小学校どうなりますか。すぐ壊すのか、例えば、体育館だけ残すのか、グラウンドだけ残すのか。ちょっと気になっています。

(事務局) 1つ目についてですが、地域と一体となってということはすごく大事なことで、子ども達にとって魅力あることなのではないかなと思います。けっして統合することによって地域の行事等に参加できなくなるということではないと思いますので地域の子どもとして地域のことに参加してもらいつつ、学校の学習として隣の地区の文化を知ることができたり、実際に見に行ってみたりすることで見方や考え方が広がるということはあると思います。実際に西部小でも三沢地区や田沢地区に行ってみたいという気持ちを持っているようです。一つの学校になるということで学区が広がるわけですけども、その学区の学習として、自分が生まれ

育った地区の隣の地区のことを知ることで、自分の地区のことをより良く知ることができるといいうことはあると思いますので、そういうところは大事にしていきたいなと思います。学校としてどうやって地域の学習を確保できるかといったところについては、先ほど申し上げたとおり、少し時間をかけながら考えていくことになると思っています。

二つ目の六郷小学校が閉校した後、どのようなのかということについてですが、どの学校の場合も閉校した後どうするのかというところは、みなさんご心配だと思います。避難所になっていたりしますので、それがそのまま維持されるかどうか関心が高いところだと思います。基本的な考え方としては、閉校した学校についても公共施設としてのあり方が示されています。まずは、本来の目的を終えて廃止した公共施設につきましては、廃止後、市として、学校ではない使い方をするか否かを検討させていただいて、市として学校以外の目的で使用する予定がないということになると、次の段階として、地区の方々がその公共施設を活用するということがあるかということをお尋ねすることになっています。地区としての利用予定についてご検討いただくといった段取りになります。今まで閉校をした学校の例を申し上げますと、統合準備委員会での検討が進んでいき、閉校の時期が近付いた時点で地区の皆様の方に教育委員会の施設の担当の方から小学校施設の維持経費などについての情報をお知らせしながら、地区で何らかの目的で活用される予定があるか否かをお聞きする予定になっております。概ね1年くらいの期間をかけてご検討いただいております。そして、地区では使わなくなった場合は、次の段階として当該施設を民間事業者が何らかの事業で使う希望があるのかについて、公募する流れになります。民間事業者から実施したい事業内容を提案してもらい、それが地域にとって良いかどうかといったところも見ながら事業採択の可否を決定していく流れになります。まだ、この段階まで進んだ公共施設はありません。既に統合しました関小学校の場合は、地区ではお使いにならないという回答を頂いておりますが、公募には至っておりません。今後、場合によっては公募が実施されるかもしれませんが、今のところ公募予定はないところです。地区や民間事業者の活用の可否が決まるまでの間、安全に施設の使用ができる間は、避難所利用や施設の社会開放を継続していくことになります。

(会 長) 他にありませんか。

(委 員) 六郷地区では教育懇談会をやっているわけですが、今までは、学校の授業の一環という形でさせていただいていたわけですがけれども、統合後もやりたいとなった場合、学校では、学校行事じゃなくて地区の行事になっていくと思うのですが、その辺、コミセンとしてはどのように対処すればいいのか。

また、先ほども話がありましたが、伝承行事も学校の授業の一環としてやってきているが、それも今度はコミセン独自でやらなくてはいけないのか、新しい統

合小学校になった場合、六郷地区の子どもたちだけ呼ぶと小学校の行事とは離れることになると思うが、小学校行事でなくなるので地区としてはどのような形で進めていったらよいのかという心配があります。

(事務局) 地域の行事については、三沢東部小、三沢西部小の場合も地区と学校が一体になって行っている行事が相当ありました。地区の行事に学校が関わり、学校の行事に地区の方に来ていただくというように相互にかかわり合いを持っていたきながら取り組まれていました。それをどういう形にするのか、学校が目の前にはなくなるので、今までとまったく同じようにはできないということは、みなさんわかっておられましたが、それでは、長年やってきた行事を継続するのか、継続する場合でもどういう形でやるのかといったところがなかなか難しかったと思います。学校から帰って来れば、地区に子どもたちはいますので、今度は、地区と地区にいる子どもたちがどういうふうな関わりを持っていくのかを考えていく必要があるのではないかといったお話はありました。統合前と同じようにはできないということをご承知の上で、今までやってきたことをどういう形だと続けられるのかといったところを考える必要があるということを意識されてたと思います。

具体的に、統合して4月からみんな一斉にこの行事やりましょうというところまではいかないところもありました。まずは、年度が変わって、新年度の行事として試しにやってみましょうとなったものもありました。今後開催予定の統合準備委員会の中でも、地域行事について検討項目として俎上にあげることを予定していますので、そこで地区の方々、保護者の方々、学校の方々に入ってくださいご協議いただきたいと考えています。

(会 長) ありがとうございます。他にありませんか。

(委 員) 学校に登校できない子どもたちがいるってところで引っかかった。今の時代は、学校に行かなくても勉学はできる。大学に入るくらいの勉強はネットでもなんでもできる。だから学校に行かなくてもいいとなる。頭がよければ大学に行けるし就職口もあるから。でもそれは間違っている。間違っていないかもしれないけれども、そういう教育をしたからこそ自分に利益がないものはすべて排除するっていう人間が育ってしまったのではないか。それが一番問題なのではないかと思う。米沢市の教育委員会、山形県の教育委員会、文科省、結局のところ国の教育基本方針に合わせたようなものしかでてこない。国会でもよく言っている、地域カラー出せとか、地域の特色を生かした作物を作りましょうとか、いろんなこと言われる。ところが、それを作ろうとしたときにすべてハードルがある。これをクリアしないと補助金を出さないとか、これをクリアしないと駄目ですといったスタンスがある。道の駅はどこにでもある。米沢にだけ道の駅があるわけではない。常に中央の行政が実権を握っていて地方でこれをやりなさいとなっている。地域のカラーを出せといわれても出せるわけがない。一番は教育委員会でこれか

ら統合して本当に米沢の教育はこうしたいというものを文科省へ申請してそれで認められた地域カラー出すような教育方針で米沢として独自に教育する、というようなものを許可もらってやるくらいの覚悟をもって米沢らしい子どもを育てるとか、自然を愛する子どもたち、自然を大事にする大人、といった将来の日本を支える人をつくろうというようなスタンスを米沢市の教育委員会に持ってもらいたい。国から言われて、教育基本方針から外れたら駄目で、私たちもそう思います、やりたいと思いうけれども結局のところ教育方針から外れるのでできませんと言ってしまったら終わりだと思う。

それを変えるぐらいの覚悟は必要だと思う。本当にできないというのなら、私が県の方とも話してみたいと思う。山形県はこういうふうにやりたい、地域カラーを出したい、でもあなた方の言っていることは全部東北だったら東北、農村だったら農村にあったようなものしか認めないというのはおかしい。地域カラーを出せと言っているのだから、我々の方針そのものを受け入れてもらいたい。教育方針としての米作りとか野菜作りとか、農産物を作る生活ができる教育をしたいということを米沢の教育方針として出せるのではないか。みんながそこまでの覚悟を持っていないと世の中は変わらないと思う。自分の勉強だけをすればいいという子どもたちは確かにいる。地域のことは関係ない、俺は大学へ行きたい、世界に通用する人間になりたいという人もいると思う。そういう人はやっぱり中央に行けばいいと思うし、親も同調するから、当然引っ越して東京でも関東圏でも行くと思う。でも、やっぱりそういうふうに、地域のカラーを出せるっていうのは地域にいた人達に色々な経験があるから方向性を出せるのだと思う。だから地域の人達の声を、教育委員会にいる人たちはみんな公務員で定年もあり定年になれば終わりである。我々は死ぬまで終わらない。70歳になっても80歳になっても終わらない。だから将来の地域像が見えるような我々の意見をもっと吸収して欲しい。米沢市の教育方針検討会といったものでも立ち上げて、各地域から中山間地域の有識者とかを集めて米沢の教育をこうしたいとかみんなで意見交換しながら、米沢の教育基本法を作っていくというぐらいの覚悟を持ってほしい。そういうふうになっていかないと地域は変わらないし世の中も変わらないと思う。常に上から言われていることに右ならえして、われわれは、そのラインの中でしか生きていない。自由だとか言っているが全然自由じゃない。もう全部縛られている。私たちは縛られたままこの世を去るかもしれないが、そうでないものを子どもたちに、次の世代でやっぱりそういうことでないっていうことを、自分たちがやれば何とかなるっていうことを、糸口を見つけて、今の子どもたちでできなければ孫の代になってもいいと思うし、やっぱりそういう志、やりたいという志を教育するということ、そういうことを基本にして取り組んでももらいたいと思います。米沢の教育基本法をつくるための検討会でも立ち上げてもらいたいなと思

っています。要望でございます。

(会 長) 熱い想い語っていただきました。その他皆さんの方からありませんか。ないようでしたら、統合のあり方に関する意見については以上にさせていただきと思います。

(会 長) 次に、「その他」について説明をお願いします。

《 事務局から説明 》

(会 長) 他に質問はいかがか。無ければ以上で協議終了とする。御協力ありがとうございました。